

仙台市の新展示施設が2015年4月にオープン 先だって2015年3月に国連防災世界会議の開催が決定

(公財)仙台観光コンベンション協会

新展示施設について

仙台市では2015年4月オープン予定の新たな展示施設の整備を進めています。この施設は2015年3月に仙台開催が決定した第3回国連防災世界会議において、仙台国際センターとともに本体会議場として使用することを予定しています。

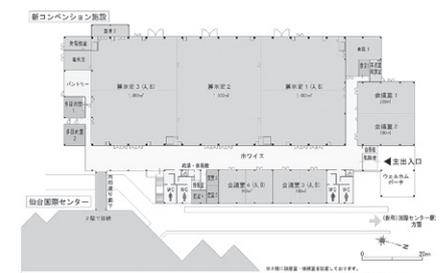
建設予定地は国際会議場である仙台国際センター横の宮城県スポーツセンター跡地で、鉄骨平屋、一部2階建てで延べ床面積約5,800㎡。広さ3,000㎡、天井高約9mの展示室は可動間仕切りで5分割可能（オープン当初は2分割）。また200㎡の4つの会議室を備えています。仙台国際センターの主会場フロアと渡り廊下で直結し、一体的な利用が可能となります。

2015年度内には隣接する場所に地下鉄東西線が開業予定で、仙台空港からの所要時間は、仙台空港から仙台駅へ最短17分、仙台駅から（仮称）国際センター駅まで地下鉄で4分と、高いアクセシビリティが確保されます。

本施設の完成により、これまで仙台市では難しかった大規模なコンベンションや展示会の受け入れが可能となり、今後も東北大学や商工会議所などとも連携を図りながら、国内外多数のコンベンションの誘致に向け積極的に取り組んでいきたいと考えています。



(仮称) 国際センター駅2階より主出入口方面のイメージ



平面図

国連防災世界会議開催に向けて

第3回国連防災世界会議が2015年3月に仙台市にて開催されることとなりました。国連防災世界会議は1994年の横浜、2005年の神戸に続き、日本での開催となります。

2011年3月に発生した東日本大震災は、東日本全体にわたる複合的な被害をもたらしました。中でも、仙台市のような100万人を超える人口を有する都市が、これほどの大地震と津波の被害を受けた例は、世界を見ても稀有なものです。第3回国連防災世界会議においてこの経験と教訓を紹介し、世界の防災・減災に貢献するため、仙台市では鋭意準備を進めています。被災地におきましては、震災からの復興に向け、地域連携や市民協働の取り組みが着実に積み重ねられており、これらの災害に強い都市づくりは、地震・津波はもちろん、風水害などの災害や緊急時の対応として、世界へ向けても大きな示唆となるものと考えています。

会議につきましては、国連による本体会議が仙台市にて開催されるほか、県内の市町村および青森・岩手・宮城・福島4県の被災4県において、関連事業の実施を検討いただいております。関係者が一丸となって国連防災世界会議を盛り上げていきたいと考えています。

第288号 自治体国際化フォーラム10月号

平成25年9月15日発行

編集人 藤田 穰

発行所 財団法人自治体国際化協会
〒102-0083

東京都千代田区麹町1-7

相互半蔵門ビル

Tel. (03) 5213-1722

Fax. (03) 5213-1741

Homepage <http://www.clair.or.jp/>

E-mail forum@clair.or.jp

編集協力・印刷 エイト印刷株式会社

本書からの無断複写・転載を禁じます。

編集後記

私の地元、熊本市には「随兵寒合（ずいびょうがんや）」という言葉があります。随兵とは9月半ばに行われる八幡神社の例大祭のことで、この頃を過ぎると残暑が和らぎ、朝晩が冷えるようになることを意味しています。今年の夏は猛暑でしたが、この号が発行される頃には、九州でも秋の訪れが感じられることでしょう。

秋祭りといえば、日本に10年近く住んでいる語学学校の先生が、今では地域の祭りに参加し、法被を着て御輿を担いでいると言っていました。このように外国人が伝統行事に参加できる地域は、外国人にとって暮らしやすい場所といえるかもしれませんね。地域の「国際化」は行政だけでは果たせないもの。今回の特集テーマにつながる話だと感じました。

(K.T)